



清算事業団の怒りを共有し 仲間を奪い返そう

政府・自民党・当局・ 九州・北海道での 「広域採用」攻撃の実態 一体の広域攻撃

事業団当局は、昨年十二月十九日から本年一月二三日まで「広域採用」の募集を行った。この攻撃はなんの展望もないままに強行され、そのやり方は、悪らつを極めたものであった。

当局の口はこうだ。詰所にはデカデカと「広域募集中・あなたの幸せのために」なるポスター、看板をあちこちに貼り、「個人面談」で分断をはかり、「手紙」「家庭訪問」を繰り返して、「今回が最後だ。応じなければもう終わりだ」とどう喝しては切り崩しを図った。

何という破廉恥か！ 屈服しないと見るや、ズカズカと家庭にまで入り込み、家族の生活不安をかりたてて動揺を誘おうというのだ。清算事業団の仲間を選別し「首切り通告」をしたのは一体誰か！ JRでぬくぬくしている職制であり、事業団の職制ではないか！ 首を切っておきながら「あなたの幸せのために」とは何事か

また、当局は地労委での相次ぐ敗北で「あと一年」での解決などおおよそ不可能となった今、そのあせりは、より凶暴な攻撃となり事業団労働者個々におそいかかっている。事業団当局は、来年四月を待たず「広域採用」を押し進め、事業団の解体に闘いの絶滅を狙っている。しかし、彼らに労働者魂を打ち砕くことなど出来はしない。ウラ、ウラ、

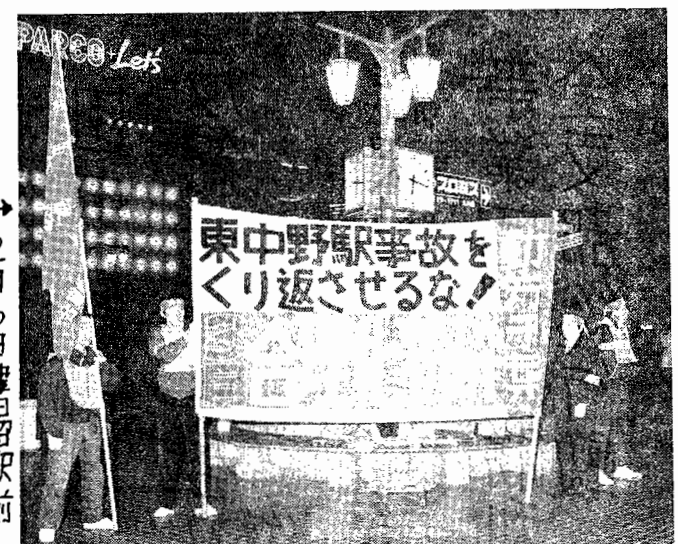
！ そうであるならば直ちに現職に戻せ！

事業団労働者の無念と怒りをわれわれは共有しなければならぬ。九州の仲間達はキッパリと「広域」を拒否し、応募はわずか百七十数名だった。北海道でも一千五百名をこえる仲間が現地で闘い抜いている。

またこの攻撃に完全に屈服しているのが、日共・協会派の「広域」方針に他ならない。分会の役員自ら「雇用確保のため」と称して、「広域採用」に応じ、地労委闘争の過中、その勝利命令をかちとりながら、組合員を当局の前に投げ出し、さつさと本州へむかってしまうとは、まさに闘いに無責任な敗北主義だ。日共・協会派は言う「本州へ行って運動をする」「本州で撤回闘争を」「広域は闘いの一環、闘争の任務」と本州へ行く事が任務だというのだ。まさに国労内部から事業団の闘いを解体し、当局に手を貸すものとなっている。

清算事業団闘争はいよいよ正念場を迎えた。事業団当局は「時限立法」の「期限切れ」まであと一年と迫った今日、なお三千名を超す労働者が原職奪還の闘いを闘い抜いていることに、そしてその不屈の闘いが国鉄労働運動の軸となり、怒りの爆発が「分割・民営化」体制をその根底から揺るがしている現実に、何よりも恐れている。

また、当局は地労委での相次ぐ敗北で「あと一年」での解決などおおよそ不可能となった今、そのあせりは、より凶暴な攻撃となり事業団労働者個々におそいかかっている。事業団当局は、来年四月を待たず「広域採用」を押し進め、事業団の解体に闘いの絶滅を狙っている。しかし、彼らに労働者魂を打ち砕くことなど出来はしない。ウラ、ウラ、



2月6日津田沼駅前
安全無視のJR
ストで反撃する！
訴える、青年部街宣

安全切りすでの三月ダイ攻撃に対して具体的反撃が始まった。

青年部は二月一・二・三日千葉駅、六日津田沼駅、七日船橋駅において各日十八時すぎよりピラマキ行動を貫徹した。

「ふたたび東中野駅事故をくり返させるわけにはいかない」という内容のピラと宣伝カーによる訴えが、各駅利用者に浸み入るよう伝わっている。

JR体制の矛盾が一挙に露呈されている。運転保安確立、清算事業団闘争にスト決起を。